

青梅市文化財ニュース

第 10 号

昭和63年 7月 1日

発行 青梅市文化財保護指導員連絡協議会

青梅市郷土資料室

(青梅市駒木町 1-684 Tel.0428-23-6859)

霞地区の文化財の紹介に引き続き、今回は、板碑や石塔等によくみうけられる梵字^{ぼん}の意味を少しご紹介しましょう。次にご紹介するのは、先日、霞地区の寺をまわって集めたものの一部です。梵語は、古代インドの文字であるサンスクリットに使われていた語で、梵字はそれをするための文字です。現在は、仏教用語中に使われているのです。

ツツジの名所でもある塩船観音寺の本堂にあがり、奉納されている木札をみますとどの木札にも卍の文字が書いてあります。右手の展示棚には、同文字を刻んだ元文4年(1739年)の種子印(その寺の主導を象徴する梵字を刻んだ印)が展示してあります。この文字は(キリーク)と読み、千手観音を象徴しています。塩船観音寺を東面に200mほど行くと、塩船寺があり、境内の南の隅に古い石塔があります。その石塔の四面には北面に(阿克 不空成就如来^{ふくうじょうじゆ})南面に卐(タラク 宝生如来)東面に(ウン 阿閼如来^{あしやく})西面に卍(キリーク 阿彌陀)を象徴する文字が彫られています。興味のあることには、塩船観音寺のある方位の西面には、塩船観音の主導の象徴卍が彫られていることです。卍は、千手観音のほか、阿彌陀如来をも象徴しています。今井の薬王寺はツツジが美しい静寂をもったお寺です。境内には青梅市内の鋳工による唯一のものといわれる銅鐘があります。(裏宿の鳥村照恩、寛政六年作)。この寺の本尊は薬師如来で、境内にある板碑のひとつに(ベイ、バイ 薬師如来、薬王菩薩)の種子字としての梵字がみられます。今井会館と道路をはさんだところに地藏尊があり、地藏堂は板小屋で、昔日の面影はありませんが、狭い敷地の隅に小さな四角柱の石塔があります。刻まれた字から天保年間に建てられたものとわかります。石塔の北面に、「先祖代々有縁無縁之各霊」とあり、その上に一字(ア 大日如来)の種子字が刻まれています。大日如来は、あらゆる如来を統一する仏であり、すべての霊に対しての昔人の暖かく深いおみがしのぼられます。今井の正福寺にある寛政三年の銘がある石碑は、「萬霊等」と刻まれており、ここにもの種子字が刻まれています。藤橋の宝泉寺の13重塔の下部にある四角柱面には、東面に(ベイ、バイ 薬王菩薩)、西面には(ヂク 金剛燈菩薩)、南面には(ギャク 金剛塗香菩薩)、北面には文字不明瞭……の(おそらく)四菩薩の種子字が刻まれています。

吹上の宗泉寺の鐘楼改修記念の五輪塔婆(最近建立のもの)には、宇宙の成立にかかわる仏教の思想が現されています。(左から順に空、風、火、水、地を意味し、法界塔の標識であり、そのまま法界身となっています。各所でよくみうけられる塔(キヤ)(カ)(ワ)(バ)(ア)です。

(文責 橋上一彦)